



市民創世会  
丹尾 ひろき  
議員

## (市長選について) 新市長に対する質問

**問** 三つどもえの厳しい戦いに勝利されたが、市政を担うに当たって、今後市民とどのように向き合う考えか。

**答** 市長 選挙後、すぐにノーサイドを宣言。市政を推進するに当たり、私を応援いただいた方、他の候補者を応援された方を何区別なく、分け隔てなく、1人でも多くの市民の皆様から御意見をお聞きしながら市政運営に全力投球していく。

**問** 立候補に当たり、牧野市政の継承を主張していたと記憶しているが。

**答** 市長 牧野市政の良いところはしっかりと引き継いでいくし、そうでないと思われるところは改善していく。政治手法も、参考にさせていただくことは多い。多くの先輩方の教えを踏まえ、市民の信頼が得られるよう全力で職責を全うする。

**問** 自動失職を選択することで補欠選挙をなくした。なぜ、最後の最後まで議員を辞めなかったのか、その理由は。

**答** 市長 市議会議員として最後まで仕事をすることが、令和元年6月の市議会議員選挙で私に投票された1,771票への恩返しであると考え、自動失職を選択した。



公明党  
奥村 よしゆり  
議員

## 市長が目指す「笑顔あふれるさばえ」とは

**問** 佐々木新市長が目指す『笑顔あふれるさばえ』とは具体的にどのようなことか。

**答** 市長 経済、福祉、財政の3つをしっかりと回し「まち」「ひと」を元気にすることで鯖江に住んでいてよかった、住みたいと思ってもらえるような、日常生活の中で笑顔があふれるまちを目指したい。具体的には新幹線を見据えた交通体系の整備・観光政策、デジタル技術活用で地場産業、農業の後継者対策、未来の鯖江を支える教育、ソフト・ハード両面にわたる子育て環境整備、高齢者や障がい者が自分らしく生きるための福

祉施策、健全財政運営など多くの課題解決に向けた取組と、安全安心で幸せに暮らせる持続可能な「めがねのまちさばえ」の確立に向けた、SDGsおよび総合戦略の確実な推進。『笑顔あふれる鯖江』の実現に向け、市民の立場に立って知恵を絞りメリハリをつけ実施していきたい。



笑顔があふれるまちさばえとは

## 困窮者への住宅確保支援策は

**問** 鯖江市の公営住宅では、住宅確保要配慮者に対しても所得基準や連帯保証人が必要だが、今後それらの条件に対してもっと柔軟に対応できないか。

**答** 確保が困難な連帯保証人や、それを補う債務保証会社については他市町の状況を十分踏まえながら、導入の可否について慎重に対応する。

**問** 住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居を促進し、福祉の向上と豊かで住みやすい地域づくりを目指す居住支援協議会について、鯖江市ではどのように取り組むのか。

**答** 要配慮者の自立的な生活確保には、行政や福祉団体、不動産会社による包括的な見守りや相談体制が必要である。鯖江市も、福井県居住支援協議会や関係団体と連携を取りながら取り組んでいく。

**要望** コロナ禍の中で、生活支援が必要になる生活困窮者はますます増えてくることも考えられる。鯖江市や丹南地区での居住支援協議会の設立を強く要望する。



住宅セーフティネットの根幹である市営住宅



清風会  
林下 豊彦  
議員